

ピンクリボンNEWS

2020年度
春号
Vol.9 No.1

発行人 認定NPO法人 J.POSH

編集 ピンクリボンNEWS 編集委員会

発行所 J.POSH事務局 〒538-0043 大阪市鶴見区今津南2丁目6番3号 TEL.06-6962-5071

J.POSH
日本乳がんピンクリボン運動®

TOPICS

「シッターサポートプログラム」の創設



認定NPO法人 J.POSH
理事

平田 以津子

J.POSHでは、乳幼児を育てながら乳がんの抗がん剤治療や放射線治療を受けておられる方に、乳幼児の一時預かり保育やベビーシッター等にかかる費用の一部を助成するプログラムを、昨年秋に創設致しました。乳がん患者さんの総数からすると、対象となる方の人数はほんの一握りではありますが、自身の治療と幼子の育児のやりくりで辛い思いをされているママたちを少しでも応援したいとの想いから作り上げたプログラムです。

治療と育児のママ応援

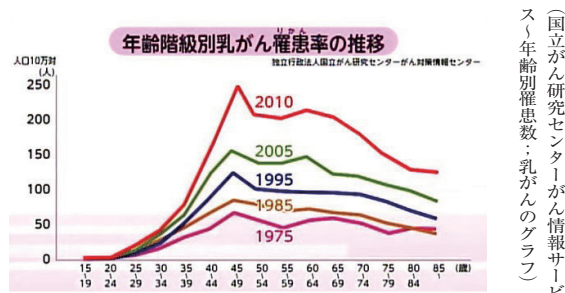
近年、日本では晩婚の傾向が進んでいます。生涯未婚率も高く、少子化なども、大きな社会の課題となっています。2019年の出生数はついに90万人を切ったとのニュースも報じられました。一方乳がんの罹患者の若年化、とりわけ、30歳代の罹患者数が増えています。この

様に、晩婚化と乳がん罹患の若年化によって、乳がんと診断された方の中に、乳幼児を養育中の方が多くなっていくのが現状です。

農業が中心だった時代には、親が畑に行く時は、爺ちゃん婆ちゃんが子守りをしてくれたり、赤ちゃんも一緒に畑に連れて行って籠で寝かせておく等という光景も普通にあったようです。しかし現代では核家族が一般的で、仕事の都合等で実家から遠く離れて暮らす方々がとても多く、また、ご近所同士の関わりも昔とは違い、マンションなどでは個人情報を守るためか、表札も上がってなくてお隣さんの名字すら知らないというケースもよくあるようです。

私自身も三人の子供を育ててきましたが、両方の実家は比較的近く、よく助けてもらったものです。そして、お隣さんにもよくしてもらい、時々子供を預かってもらう事もありました。でも世の中は変わってきています。まさに実家から遠く離れて暮している私の娘の子育てを見ていて、大変さがわかりました。出かける時は、1人はベビーカー、もう1人は抱っこ、そして大きな荷物。実家が遠いと、自分がちょっと歯医者に行くにも「ばあばとお留守番してね」というわけにはいかないのです。

乳幼児は本当にかわいく愛おしいです。でも誰かにお世話をしてもらわなければ生きていけない存在なのです。その誰かとは、ほとんどの場合は親であり、特に母親が全面的に世話をするケースが多いと考えられます。その母親が乳がんになったらどうなるのでしょうか？誰しも「がん」と告知されたら頭が真っ白になって自分の身に起きた事がすぐには受け入れられないと言われます。「告知を受けた後、病院からどうやって帰ってきたのかも覚えていない」と仰った方もありました。乳幼児をかかえる母親は、自分ががんと知らされ、ショックで不安を感じると同時に、子供達をどうすれば良いのだろうと、谷底にでも突き落とされたかのように、途方に暮れるのではない



でしょうか。

『金銭的サポートと応援が心強い』

乳がんは早く見つければほとんどが良くなると言われていますが、治療自体は長く続くのです。中でも、抗がん剤治療を受けた場合、吐き気や倦怠感、脱毛などつらい副作用が起こります。そんな時は、普通でも弱気になったり、不安になったりするでしょう。でも乳幼児は感情のままに泣いたり抱っこを求めたり、歩き始める頃には不安定な歩き方で、あちこち探検して動き回ります。そう、治療中で体調が悪くても、ゆっくり休養はできないのです。そして、子供さんを外で遊ばせてあげられない事を申し訳なく思う親心。だけど、もう一人で抱え込まないで、頑張りすぎないで、少しでもストレスフリーでゆっくりできる時間をもってもらいたいのです。それにはどなたかにお手伝いをお願いしなければ・・・でも、親御さんや親族にお願いするのも難しい条件はいっぱいあります。さすがに、入院、手術の時には、万障繰り合わせて、旦那さんが休みを取ったり、親御さん等が来て下さる事は可能でも、

抗がん剤治療や放射線治療など、継続的な治療の場合には、頻繁にお願いするのは難しいというケースが多いと思われます。



- ・夫は仕事で帰りは遅い、休業が難しい
- ・両実家が遠方、親も仕事をしている
- ・両実家の両親も高齢で、闘病中や看病中、祖父母を介護中等々、頼る事が難しい状況で子育てしながら闘病生活をされている方がおられるのです。

そんな方々に、乳幼児の一時保育やベビーシッターさんをお願いしてもいいんだ〜と気持ちを楽にしてもらいたいとの想いを込めた、シッターサポートプログラムです。助成金自体は、月に1万円で6か月分と、実際にかかる費用のほんの一部の金額でしかないのですが、受給された方から「金銭的なサポートももちろん大変ありがたいですが、乳がんの治療を応援して下さる方がいると実感できることも、非常に心強いです。」とのメールを頂いた時は、このプログラムを作って本当に良かったと思えた瞬間でした。

若 年性乳がんと共に生きる



若年性乳がんサポート
コミュニティ Pink Ring
代表

CNJ 認定乳がん体験者
コーディネーター

ミフネ ミエ
御船 美絵

31歳、結婚の直前に乳がんと診断されました。それまで、出版社でやりがいのある仕事をして、休日は友人と旅行に行き、美味しいご飯を食べに出掛けることが楽しみな普通の女性として生きていました。しかしあの日、突然がんと診断され、病院では「患者さん」と呼ばれるようになり、病気と向き合う日々が始まりました。

がんと診断された日、これから歩みたいと思っていた、結婚して、子どもを産み、育て、家族を作るという女性としての未来が崩れた気持ちになりました。「死にたくない」「胸を失いたくない」「子どもを諦めたくない」、失いたくないものだらけでした。しかし、そのすべてを望むことはでき

なかったもので、自分にとって何が一番大切かを考えました。その結果、私は将来子どもを持つ可能性を少しでも多く残すことを大切に、様々な治療を選択してきました。

そして今年、診断から10年を迎えます。一昨年、告知された時に強く願った子どもを授かることもできました。現在は、若年性乳がん患者支援団体「Pink Ring」で、同じ立場から患者を支える活動をしています。

私は、結婚というライフイベントと闘病が重なりましたが、同じ病気の仲間の中には、妊娠中にがんと診断された方、仕事で昇格した途端に告知を受けた方、小さな子どもがいる中で見つかった方など、さまざまな方がいます。そして多くの当事者と出会い相談を受ける中で感じることは、若年性乳がん体験者は、治療のことに加え、個々のライフフェーズによって、「恋愛・結婚」「妊娠・出産」「子育て」「就労・転職」「パートナーとのコミュニケーション」など、若年特有の多様な問題を抱えているということです。しかし、それらの悩みを相談する場所や支援を得られず、一人で抱え込んでいる方も少なくありません。

若年性乳がんをサポート必要

若年性乳がんと診断された方が、納得して治療を選択し、安心して治療を受けられ、がんになったその先の人生をその人らしく生きられるようなサポートがもっともっと必要だと日々感じています。

今回、J.POSH様のシッターサポートプログラムの存在を教えて頂き、乳幼児を育てながら治療を受けている仲間にとって、大変心強いサポートだと感じました。小さな子どもを連れての通院の大変や、一時預かりを利用するかどうかを悩んでいる方のお話を聞くこともあります。治療中の子育てママに寄り添うシッターサポートプログラムに

救われる方が、今後さらに増えてくることと思います。

がんになったことは、10年経った今も悔しくて仕方ありません。がんになって失ったものも、諦めたことも、数えれば色々ありますが、がんを経験したからこそ知った痛みや辛さ、そして優しさや強さ、それはきっとこれからの私たち自身の価値になると信じています。

私の周りには、がんになった後の人生を、自分らしく歩んでいる仲間がたくさんいます。がんになった先にも多様な人生があります。自分の中の幸せを見つけて、自分らしく生きられれば、それはとてもすてきな人生だと私は思っています。

八女(やめ)のおじいちゃんを訪ねて

J.POSH奨学金まなび創設の原点となった福岡県八女市の山下さん。私は「八女のおじいちゃん」と呼んでいます。毎年1月、「With You 九州あなたとプレストケアを考える会」が福岡で開催されますが、その折に時間がとれる年にはおじいちゃんを訪問しています。

おじいちゃんは、看護師をされていた次女さんを乳がんて亡くされ、幼い子供たち(孫)をおばあちゃんと2人で育てる事になりました。お手紙でその事を知らせて頂いた事をきっかけに、私たちはJ.POSH奨学金「まなび」を立ち上げました。(おじいちゃんとの出会い、いきさつはJ.POSHのホームページ、奨学金まなび「設立の想い」をご覧くださいと思います。)私たちが八女のおじいちゃんを初めて訪れたのは6年前。その当時、下のお孫さんは中学2年生。中学校での乱暴な生徒やいじめ問題で、安心できないと仰っていました。その3年後に伺った時は、おじいちゃんは病気で退院されたばかりの時、入れ替わりにおばあちゃんが腰の手術とかで入院されている時でした。

そして今年。おじいちゃんはお元気に、庭に出て待っていて下さり、にこやかに迎えて下さいました。今回はおばあちゃんもお元気で、一緒にお話をして下さいました。1月13日は、下のお孫さんの成人式だったと、晴着姿の家族写真を見せて頂きました。そして同じその日に亡き娘さんの13回忌をつとめられたそうです。おじいちゃん、おばあちゃんはお孫さん2人ともが成人となられ、ホッとされた事でしょう。でもまだ次は、「早よ嫁に出さなきゃあ・・・」と。

おじいちゃんは今年の4月で90歳。「大変な人生でし

た」と、ぼつりぼつりと語り出されました。15歳で志願して3歳上のお兄さんと一緒に入隊した事。そのお兄さんが戦争で亡くなった事。「戦争に駆り出されて行く時代だったが、間違いじゃった。教育の問題じゃろう」と。戦後は林業で一生懸命働いて、自分で土地も家も買った事。63歳の時、山で木が倒れてきて頸椎損傷で、車いす生活になった事。そして70代後半には娘さんを亡くされ、小学生のお孫さん2人を育てる事に。車いすで思うように動けなくなった事で、そのイライラからおばあちゃんに辛く当たった事もあった・・・と反省の言葉を口にされるや否や、おばあちゃんは「その仕返しにおじいさんが亡くなったら頭を叩いてやる」と笑ってお茶目に言われました。

お二人ともまだまだしっかりいておられますし、これからもお元気で仲良くして頂き、「頭を叩いてやる」のはもっともっと先にお預けにしてほしいですね、また、時々会い行きたいと思います。

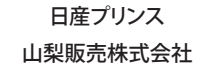
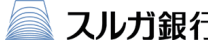
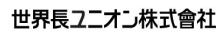
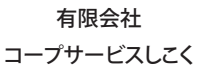
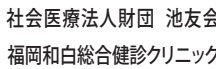
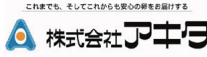
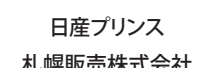
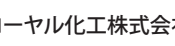
(認定NPO法人J.POSH 理事 平田 以津子)

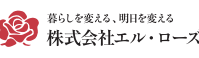


八女のおじいちゃん(右)おばあちゃん(中)と平田理事(左)

J.POSHオフィシャルサポーター

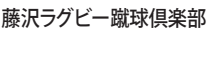
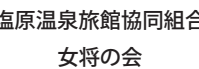
認定NPO法人 J.POSH (日本乳がんピンクリボン運動)を通じてピンクリボン運動をご支援いただいている企業・法人・など各種団体の一覧です。

 東京海上日動 あんしん生命 有限会社ヨガワークス	 ここちいいヨガ、ここから。 有限会社ヨガワークス	 株式会社フラウ・インターナショナル	 プロポーションづくりのダイアナ 株式会社ダイアナ	 ベルーガクリニック BELUGA CLINIC
 ジャパンリスクマネジメント株式会社	 株式会社 あおり協同サービス	 医療法人健優会 マンモプラス竹尾クリニック	 医療法人医誠会	 日産プリンス 山梨販売株式会社
 JA三井リース	 スルガ銀行	 株式会社 タカゾノ	 日産プリンス茨城 http://www.prince-ibaraki.jp/	 ナチュラルウィグ シャポード
 株式会社ベネフィット・ワン	 ノイエス株式会社	 エルスメディケア名古屋	 SOLUTION for your life ... for your business ... 株式会社オフィストゥーワン	 人も地球も健康に 株式会社ヤクルト本社
 東京ソワール	 高木金庫工業株式会社	 中部飼料株式会社 CHUBU SHIRYO CO., LTD.	 世界長ユニオン株式会社	 朝日生命保険相互会社
 有限会社 コープサービスこく	 品川美容外科	 SUNTORY FLOWERS LIMITED サントリーフラワーズ株式会社	 社会医療法人財団 池友会 福岡和白総合健診クリニック	 株式会社アキ
 京都奉製株式会社	 スリーエー・ライフ株式会社	 日本ルナ株式会社	 JFR CARD JFRカード株式会社	 日産プリンス 札幌販売株式会社
 空気を洗う吸紙 ルノン株式会社	 サカタのタネ	 リそな銀行	 アイアイショップ 株式会社アイアイ	 E/s for life 株式会社イーズ・インターナショナル
 株式会社ケリーハーツ	 (株)コープデリ保険センター	 中日本メディカルリンク株式会社	 hugge bridal sweet and luxuly bridal inner 株式会社ローズ・サプライ	 株式会社くわこや
 株式会社ジャパックス	 フィット株式会社	 株式会社シールズ	 ティーベック株式会社	 RITSUBI LEADING BEAUTY INNOVATION 株式会社リツビ
 大木産業株式会社	 Activate Power of Fashion 株式会社 iDA (アイ・ディ・エー)	 ローヤル化工株式会社	 雪印ビーンスターク株式会社	 兵庫日産自動車株式会社

 ウィック・かつら専門店 コヰ	 ほけんのぜんぶ	 日本のゴミは(不用品等)世界の宝 IHON REUSE SYSTEM 日本リユースシステム株式会社	 YONEMURA ESTHETIQUE GROUP 米坂エステティックグループ	 新潟日産モーター 新潟日産モーター株式会社
 暮らしを変える、明日を変える 株式会社エル・ローズ	 株式会社HEAVEN Japan	 株式会社神戸酒心館	 株式会社トリニティ・ワールド	 明日をもっと、こころよく GUNZE グンゼ株式会社
 THE WORLD THE WORLD株式会社	 司観光開発株式会社	 calmic a service from Kentokki Initial 日本カルミック株式会社	 ミドリ安全株式会社	 日本製紙株式会社
 仲栄商事株式会社	 築野食品工業株式会社	 名古屋銀行	 株式会社UCS	 株式会社日成アドバンス
 株式会社シェモア	 Mylan Seeing is believing マイランEPD合同会社	 KOSHIN 高信化学株式会社	 First Friends, inc menina joue 株式会社ファーストフレンズ	 株式会社テスコム
 日本生活協同組合連合会	 医療ビジネス専門学校	 murashin made in Japan 村信株式会社	 AKI-JAPAN 株式会社アーキ・ジャパン	 Eternal エターナル株式会社 エターナル株式会社
 株式会社ワコール	 RECRUIT リクルートライフスタイル 株式会社リクルートライフスタイル	 MEDLINE メドライン・ジャパン合同会社	 SALTWORKS 株式会社ソルトワークス	 旭川 リハビリ テーション 病院 旭川リハビリテーション病院
 GOLD FLAG LTD. ゴールドフラッグ株式会社	 Leilian 株式会社レリアン	 ベルサンテ 株式会社 ベルサンテスタッフ株式会社		

J.POSHオフィシャルパートナー

認定NPO法人 J.POSH (日本乳がんピンクリボン運動)を通じてピンクリボン運動をご支援いただいている営利を目的としない患者会・協会・組合・などの各種団体の一覧です。

 乳がん患者会「関西ひまわりの会」	 神和温泉 神和温泉観光局	 藤沢ラグビー蹴球倶楽部	 JKK 女性経営者の会 全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会 女性経営者の会	 京都薫風ライオンズクラブ
 塩原温泉旅館協同組合 女将の会	 JGA Japan Gha Association established 2002 一般社団法人日本グルーデコ協会	 JBA 一般社団法人日本美姿勢協会	 FC OSAKA	 JAL WINGS 日本航空 ラグビー部 JAL WINGS
 Saijyuuji 最明寺 川越市 最明寺	 JHA NPO法人 日本ハウスクリーニング協会			

Solution 理念に、お客様の抱える問題解決



東京海上日動代理店

株式会社オフィストゥワン
www.office21-net.com

株式会社オフィストゥワン(大阪府吹田市、芳賀孝之代表取締役CEO)は、芳賀代表が1989年4月に設立し保険代理業・生命保険の募集に関する業務、各種コンサルティング業務などを営んでおられます。08年8月にJ. POSHのオフィシャルサポーターに登録されピンクリボン活動にご協力頂いています。

「もっと早く発見できていたら」 知人の死悔い乳がん啓発

「大好きな得意先の社長が、すい臓がんの症状に似た痛みを訴えたため受診を勧め、結果がんが発覚。友人が放射線科長をしている粒子線医療の専門病院をご紹介したが、すでにステージ4。結局、余命を2年伸ばしただけでした。先生と私が無力感を感じているとき、奥様よりロスタイムの2年間のおかげで長女の結婚式参列、次女に初孫ができ、主人にとって最高の2年間やったよ。だからそんなこと思わないでと言っていました。悔いることはもっと早く発見ができていれば・・・ということです。このことでがん検診が最も大切であることを実感し、ピンクリボン運動を通して啓発活動を展開しているJ.



「がん保険販売時に検診の
大切さ訴える」と芳賀代表

POSHさんに協力することになりました」と話して頂きました。

「がん保険を販売することが主たる目的ではありません」ときっぱり語る芳賀さんは「お客様に対して『がん検診は必ず受けて下さい。早期に発見し治療を行えば大多数が治ると言われています』と訴えることが目的です。とにかく、お客様をがんからお守りしたい」と。

東京海上日動の代理店の中で質、業績など総合的な評価の結果、全国で21社しかない「ロイヤルエクセレント」に選ばれたという同社。「弊社の理念は『Solution』。社員一人ひとりまた社外のパートナーの知恵、感性、情熱などが結集されてチームの個性となりその積み重ねがオフィストゥワンという“人柄”を築きあげていく。私たちはお客様の様々な問題をいろいろな角度で解決のお手伝いをさせていただきます」と話しておられます。

「保険商品、とりわけがん保険の販売時には定

期検診の大切さ、がんの早期発見の大切さを訴え、啓発するきっかけととらえています」(芳賀代表)。チャリティゴルフ大会を開催し、チャリティ資金をJ. POSHに寄贈して頂くなど、様々な活動を展開していらっしゃいます。

社員の記念撮影



へ ビー肌着製造卸売一筋に72年



『日本製で安心』貫く

村信株式会社
www.murashin.com

村信株式会社(泉大津市、鈴木淳也代表取締役)は、新生児から3歳児までを主対象にした赤ちゃん用肌着・子供用肌着の製造卸売業。今年、創業72年目を迎えた同社は、一貫してベビー用肌着の製造と販売一筋の経営を貫いていらっしゃいます。2018年2月からJ.P.O.S.Hのオフィシャルサポーターとしてご支援頂いています。

日本製にこだわり「安心」提供

同社の特徴は「生地、資材すべて日本製で、日本の紡績会社と提携して赤ちゃんの肌にやさしい素材を調達し、縫製、検品まで行っている」(鈴木代表)こと。コスト削減や労働力などを求めて海外へ進出する企業が少なくないが、同社が『日本』にこだわり続ける理由は「安心の一言です。生まれてきたばかりの赤ちゃんの肌に直に触れる肌着は、綿100%のやさしい肌触り、安心感が一番求められている。そのことを満たすのは日本製以外ないのではないのでしょうか。



生地調達、縫製、検品までを全て国内で一貫製造



「日本製にこだわります」と語る鈴木代表

当社の製品を『いい物だから』と継続してお買い上げ頂くお客様は多いです」(同)。商品の販売先は有名デパートを始め、アパレル関係など多数。ネット通販は、楽天市場、yahoo!ショッピング、アマゾンなどに『ほほえみ工房』の名前で出店していらっしゃいます。

啓発活動の原点は「赤ちゃんとおっぱいは一体」

ピンクリボン活動を支援されることになった動機を伺うと「ベビー用品を扱う立場にいる私たちにとって、赤ちゃんとおっぱいは一体のものという思いは強いです。市川海老蔵さんの奥様だった小林麻央さんのように、若くして幼い子供を残して逝ってしまうという悲しい現実を見せられた時、会社として乳がん啓発活動に取り組まなくては、という思いに駆り立てられました」と語ってくれました。

大 垣の川添さん、バイクトライアル開催し募金活動

バイク好きが大垣で年4回のトライアル大会

参加者に募金募りJ. POSHに寄付



岐阜県大垣市郊外の山中に作られたトライアルコースに、全国のバイク好きが集まって年4回開かれる「清流の国ぎふ グリーントライアル大会」。主催しているのが川添明さん(61=写真)。川添さんはこの大会で『ピンクリボン募金』を募り、J. POSHに寄付金をお寄せ頂いています。

会場近くの上石津町で暮らす川添さんは現在、大垣市の福祉関連施設に勤務。趣味はバイク、ロードスター(マツダ製スポーツカー)、アマチュア無線など多彩。地元のバイク好きが集まって「上石津グリーンライダーズクラブ」(代表=川添さん、メンバー6人)を結成し、1987年7月に第1回「グリーントライアル大会」を開催。今年3月の大会は実に65回を数えます。大会参加者から寄せられた募金をまとめ、J. POSHに初めて募金をして頂いたのは16年3月で、以後、大会開催の都度募金をお寄せ頂いています。

参加者家族の会話で乳がん啓発思いつく

川添さんが大会に『ピンクリボン募金』の“冠”をつけて乳がん啓発活動を始めるきっかけとなったのは、会場を訪れた競技参加者の奥さんたちとの何気ない会話

だったといいます。「世間話をしていたら、お二人が乳がんで通院していることが分かりました。この病気が大変な病気であるという認識はもっていましたが、実際にこの病と闘っているお二人の会話から、乳がんに関わる啓発を行なわなければ、という思いが高まりました」といいます。「早速ネットで調べ、J. POSHさんの活動に協力させてもらうことにしました」と話してくれました。

トライアル会場は「かみいしづ緑の村公園」のバンガロー村跡を地権者から借り受けて運営し、1周約2kmのコースに12箇所の障害物や急斜面などがある難コースを設定。トライアルはスタートからゴールまで“足つき”やエンジン停止、転倒などの減点が少ないライダーが優勝するスポーツ。毎回40人近くが参加し、多い時には80人もの参加者がいるということです。地元住民として地域の活性化を願う川添さんは「大会の狙いは、ピンクリボン活動のほか、里山振興、地域物産PRなどの思いも込められています」と熱く語っていらっしゃいます。



急峻な坂道にトライする競技者。円内は募金箱と岐阜県のキャラ『みなもちゃん』

ピンクリボンNEWS あとがき

『新型コロナウイルス』。中国発のウイルスが日本中を、いや世界中を震撼とさせています。TV、新聞の『罹患者は何人、死者は何人…』といった報道が連日、飛び込んで来ます。目に見えないウイルスが突然ヒトの体内に忍び込み急性呼吸器疾患を引き起こすという、怖い感染症。防御策は『マスク、うがい、手洗い、アルコール消毒、人込みを避け濃厚接触をしない』などということですが、さて、わが身に置き換えてみると…。ほぼ順守できていると思いますが、マス

クとアルコール消毒液の在庫が気になる場所。街を歩いてドラッグストアの看板が目につくたびに「あの～、マスクはありますか?」に、『ありません!』とにらみつけるような店員さんの顔。たぶん彼女たちは同じ質問にうんざりしての対応だろうとお察しします。マスクや消毒液に関しては「買占め、売り惜しみ、抱き合わせ販売、ネットによる高額転売」などの話も聞こえてきます。この事態に付け込んで私腹を肥やそうという輩に腹が立ち、やがて悲しくなります。(T.I)